

守れ！イチモンジタナゴプロジェクト 2018 報告書④

開催日：平成30年7月21日（土）

時間：13時30分～15時00分

場所：レクチャールーム、イチモンジタナゴ飼育場、噴水池、入院棟

参加人数：21名中18名

運営スタッフ：佐々木、瀬尾、瀬古、精華大学板倉ゼミ学生6名

内容：

- ・噴水池にもんどりをしかける
- ・タライ水槽（イチモンジタナゴ、ドブガイ）の観察
- ・イチモンジタナゴの稚魚の観察
- ・水質検査
- ・前回までのふりかえり
- ・もんどりの引き上げ

今回のテーマは「もんどりをしかけてみよう」です。



もんどりとは、魚が壁面に沿って泳ぐ性質を利用し、一度入ったら出られない仕組みになっている魚獲り用の漁具です。今回は、ペットボトルで自作したものを持ってきてもらいました。おもりの付け方や魚の入口の大きさなど、各自の工夫が光っていました。

まずは最近の噴水池の様子について、写真を交えてお話をしました。ヤリタナゴらしき魚が観察されていることやブルーギルが産卵床を作っていることには驚きの声があがっていました。（この後、実際にみんなでブルーギルの産卵床を観察しました。初めて見た方も多く、縄張りをめぐるオスたちの動きを興味深くのぞきこんでいました。）

噴水池では、まずもんどりに入れるエサ選びです。今回は、さなぎ粉・豆アジ・赤虫・メダカの餌・みそ・にんにく・いかくんを用意しました。どれも匂いが強く、魚が集まって来そうなものばかりです。タナゴにはメダカの餌かな…？などこちらは勝手に考えていましたが、だいたいみんな2～3種類を混ぜて入れました。

次に、魚が入りそうな場所を選んでもんどりを仕掛けます。普段は入れない池の中の石橋や、池の東側の

日当たりのいい浅瀬が人気スポットでした。慣れない作業に悪戦苦闘しながら、なんとか全員が仕掛け終わりました。後は30分間後のお楽しみです。



もんどりを仕掛けた後は、毎回定番のタライ水槽の観察です。これまでもドブガイは何匹も死亡していましたが、今回は1班のイチモンジタナゴのメスが1匹死亡しているのが見つかりました。おなかには卵があり、卵づまりの状態でした。その他の班も、ここ最近の猛暑で水温が30℃を超えたことがあったことや、藻が増えていることなど、タライの状況を聞きながら観察しました。開口器を使用して貝の中も見てみましたが、今回も卵が産みつけられている様子は観察できませんでした。



タライ水槽では稚魚が生まれなかったのですが、タライ水槽の隣にある大きな水槽では、6月から稚魚が産まれています。現在親とは別の場所で飼育しているので、みんなで見に行きました。稚魚は現在115匹。思ったより大きい！という声も聞こえました。



”

今回は、とても気温の高い日でした。少しでも外での作業を減らすため、いつもは外でしている水質検査を、涼しいレクチャールームで行いました。

これで3回目となる水質検査。もうだいぶ慣れてきて、手際も良くなってきました。



アンモニア・硝酸塩・亜硝酸塩は先月とあまり変わりませんでした。各班ともPHの値が9.0と高めになっていました。水道水のPHはおおよそ7.0なので、そろそろ水替えをする時期かもしれません。

水替えをほとんどすることなく、ろ過装置もなしで約4か月間水質が安定していたのは、タライ水槽の底に敷いた砂利にいる微生物の働きによるものだと思います。一生懸命みんなで砂利を入れた甲斐がありました。

この後、4月に立ち上げ1ヶ月毎に観察や水質検査を行ってきたタライ水槽について、振り返りを行いました。イチモンジタナゴのオスとメスの数と卵を産みつけるドブガイの数、水草のレイアウトなどを各班で考えて、稚魚が何匹生まれるかを実験しましたが、結果的にはどの班の水槽からも稚魚は生まれませんでした。残念な結果になってしまいましたが、この結果を無駄にせず次に生かしたいと思います。そのため、参加者の皆さんには、どうしてこのような結果になったのか、自分なりの答えを考えてもらいました。なかなかむずかしかったと思いますが、真剣に考えてもらい、「貝が気に入らなかったから」「オスとメスの仲が悪かった」「水の温度が高かった」などさまざまな意見が出ました。すぐに答えが出なかった人は、家で考えて来てもらうことになりました。

振り返りの後で、イチモンジタナゴ繁殖施設のそばにある看板に貼るための掲示物を作成する予定でしたが、もんどりを引き揚げる時間が迫ってきたため、これも次回までに作ってくる宿題になりました。

さて、お待ちかねのもんどの引き上げです。ブルーギルやヤリタナゴは入っているかな？と期待しながら引き上げましたが、結果はすべてザリガニでした。（全部で26匹。）ペットボトルもんどの口の大きさに合った、小さめのザリガニばかりでしたが、一つのもんどのに最高5匹入っていることもありました。また、ザリガニが入るところを確認したのに、逃げられたという人も何人かいました。魚には有効なしかけであるもんどりも、ザリガニ獲りにはあまり向いていないのかもしれないかもしれません。魚が一匹も入っていなかったのも、やっぱり魚はザリガニより賢いね！という声も聞かれました。

今回の活動で、将来イチモンジタナゴが生息できる環境に整備していこうとしている噴水池について関心を持ってもらうとともに、実際に生物をつかまえてもらうことで、外来生物が多いこと、在来種が生息しづらい環境であることを実感してもらえたと思います。また、昔ながらの漁具であるもんどりを作成し使用したことで、人と自然との関わりについても思いをはせていただけたのではと思います。